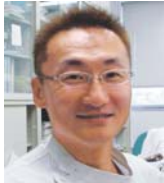


当院における 成人鼠径部ヘルニア手術の取り組み ～合併症ZEROを目指して～



市立豊中病院外科
医長

清水 潤三 先生

今回は市立豊中病院における成人鼠径部ヘルニア手術の取り組みについて、清水潤三先生にインタビュー致しました。

当院は大阪府豊中市に位置し、地域の中核病院として安全で質の高い医療の提供を目指しております。一般病床／599床、感染症病床／14床の計613床を有し外科では年間約1,400件の手術を行っております。成人鼠径部ヘルニアは外科の疾患の中で最も頻度の高い疾患で、年間約200件実施しています。鼠径部ヘルニア手術は若手の登竜門的手術ですが、複雑な鼠径部の解剖、様々な人工物を埋入する手術であり、決して易しい手術ではありません。当院では施設全体の手術の質を担保するために、専門的知識・経験を有する医師が、術者あるいは指導的立場の助手として手術に加わっております。また、教育に力を入れ、新たに執刀する先生に対しては鼠径部のモデルを用いて解剖、手技およびMesh挿入の手順を確認したうえで手術に臨んでもらっています。

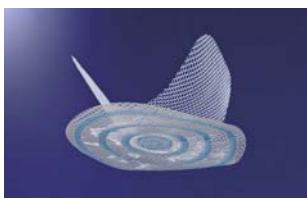


鼠径部ヘルニア手術の変遷について

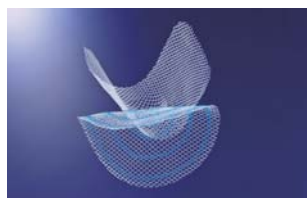
当院では2005年までMesh Plug法をおこない再発率が7～8%ありましたが、2006年にPROLENE*Hernia System (PHS)法を導入し第1選択でPHS法を選択するようになって、851例中大腿ヘルニアで1例しか再発を認めておりません。合併症についても穿孔が必要なSeromaは1例、処置が必要な血腫は0例、SSIが3例と非常に良好と感じております。

メッシュを用いる手術によって再発の問題がある程度解決された現在、術後の痛み、異物感といった術後のQOLが問題視されてきています。当院においては術中の神経の確認と温存を意識して手術をおこなっていますが、異物が体内に残されるので異物感あるいは疼痛を訴える患者さんも時々いらっしゃいます。これを解決するために、異物量を必要最小限に抑え、炎症反応、収縮のリスクを低減することが期待できる半吸収性素材MeshのULTRAPRO*Plug (UPP)とULTRAPRO*Hernia System (UHS)を2009年に導入しました。この素材はヨーロッパヘルニア学会でもグレードAで推奨されています。現在1カ月後、3カ月後、6カ月後、1年後のフォローアップをおこなっておりますが、従来のHeavyweight素材のMeshと比較して創部が明らかに柔らかく術後の違和感、疼痛が減少した印象を持っております。また、当科では2004年10月以降SSIサーベイランスを継続して行い、手術後の重篤な合併症を低減するよう活動し、より安心して手術を受けていただける体制と考えております。特に成人鼠径部ヘルニア手術においては、インプラントを挿入する手術になりますので感染対策を非常に重視しております。

ULTRAPRO*HerniaSystem (UHS)

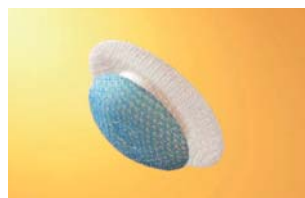


UHS (吸収前)



UHS (吸収後)

ULTRAPRO*Plug (UPP)



UPP (吸収前)



UPP (吸収後)

現在の適応について

基本的にはUHS法をメインで使用し、剥離困難な再発症例や前立腺癌手術既往例ではUPP法を選択しております。理由としては ①若手外科医がおこなってもヘルニア専門医と同等の非再発率が期待できるAll in one concept、②若手外科医に対して解剖・手技の理解をさせ外科手術の魅力を感じてもらうのに最も適した前方アプローチであること、また ③異物量を可能な限り減少できる半吸収性素材であることが挙げられます。

適用	選択手技
全 例	UHS法
再発症例、前立腺癌手術既往例	UPP法

鼠径部ヘルニア手術の麻酔

当院では腰椎麻酔でほとんどの手術を行っています。抗凝固剤を内服中の患者さんに対しては休薬すると脳梗塞や心筋梗塞の危険が増すことになるので、局所麻酔で抗凝固剤の内服を中止することなく手術をおこないます。腰椎麻酔においては術後の排尿障害が問題視されますが、尿道バルーン廃止によって解決されました。

創の閉鎖法

PDS*II4-0を用いた真皮縫合を行い、表皮には皮膚表面接着剤のDermabond*を使用することで、手術翌日からシャワー浴が可能となり術後の傷も比較的綺麗になります。真皮縫合は術後のSSI防止対策としても有効と考えております。もちろん良性疾患ですので傷を綺麗にすることも非常に重要と考えております。



当院の鼠径部ヘルニアクリティカルパス

基本的には前日入院して手術をおこない術後2日後から退院可能としております。当院では地域医療機関との連携力を注ぎ、地域連携パスの運用を強化し逆紹介の推進をしております。今後はヘルニア手術についても地域連携パスを取り入れていく方向です。

良性疾患でかつ体内に異物を埋入する手術ということもあり、術後のフォローアップについては1週間後、1カ月後、6カ月後、1年後、2年後、3年後までみております。半吸収性Meshの導入によって、患者さんに対して手術前と変わらないナチュラルフィーリングを提供できると期待しております。これからも再発ゼロを維持しつつ、術後のQOL向上を目指した患者さんに優しい手術を提供していきたいと思っております。今後は患者さんのニーズに対応した、日帰り手術の提供も視野にいれたいと考えております。

●ご意見・ご要望をお聞かせください。

貴院担当者：

連絡先：

高度管理医療機器 販売名：プロリンメッシュ(ポリプロピレン) 承認番号：20400BZY00787000
 高度管理医療機器 販売名：ウルトラプロ プラグ 承認番号：22000BZX01661000
 高度管理医療機器 販売名：ウルトラプロ ヘルニアシステム 承認番号：22100BZX00839000
 高度管理医療機器 販売名：PDS縫合糸 承認番号：16100BZY00698000
 一般医療機器 販売名：ダーマボンドHV 届出番号：13B1X00204ME0001



Z E R O へのこだわり

ETHICON
a Johnson & Johnson company

発行
ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社

エチコンジャパン マーケティング部

〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 TEL.03(4411)7901

*商標 ©J&J/KK 2010

ESJ00159

©Johnson & Johnson K.K. 1999-2010 *商標